武蔵野市環境啓発施設運営会議（第5回）議事要録

日 時 令和2年9月7日（月）開会 午後7時 閉会 午後9時

開催方法 Web 会議システム使用によるオンライン開催

参加者 委員 10 名、事務局 7 名

小澤委員長、鈴木副委員長、池上委員、宮坂委員、中西委員、塩澤委員、梅田委員、越智委員、後藤委員、荻野委員

議事等

- (1) 連携会議の実施状況について
- (2) 環境の学校PRプロジェクトについて
- (3) 環境啓発事業費補助事業の募集について
- (4) 第13回むさしの環境フェスタについて
- (5) その他（環境の学校連続講座、情報発信について）
- (6) キャラクターの愛称の募集結果について
- (7) サポーター制度について
- (8) 開館についてのオンライン会議の開催について
- (9) 設置条例について

委員意見・質疑及び事務局回答

発言者	要旨
事務局	資料1から4について説明。
委員	環境啓発事業費補助事業の審査会の構成を教えてください。
事務局	本運営会議の正・副委員長と環境部長の計3名に委嘱している。
委員	昨年の申込件数と補助した事業の内容を知りたい。
事務局	昨年は募集枠5件で2団体（フェアトレードむさしの、NPO 法人むさしの市民エネルギー）より応募があった。フェアトレードむさしのは、実行委員会という形でたくさんの団体関わった。NPO むさしの市民エネルギーは断熱についての講座を行った。
委員長	断熱の講座に参加したが、成功していたように思う。
副委員長	審査をしたが、委託事業ではなく補助なので、インプットとアウトプットがあまり明確でない。成果として期待するものに制約があると思う。審査では費目が7項目に分かれている割に、査定が大きさで、金額も1件あたり5万5千円と少なすぎる。応募者にとってモチベーションが湧くのだろうかという点が心配。少なくとも20万ぐらいにしてほしい。

委員長	いろいろなところで補助金の審査を行っているが、学校系の補助金は10万。10万で講師を呼んだり、報告書をまとめたりする。断熱の講座では、ある程度の参加もあり、よい勉強になったと思う。戸建ての住宅で窓を断熱にすると効果があることを啓発する取り組みは、引き続き団体でやってほしいと思う。
副委員長	足しになるくらいの金額なので限界はあると思うが、補助以上の成果を出していると思う。 「環境の学校」PRプロジェクトについては、中身が4つに分かれていてそれぞれ興味深い。デザインのディレクションは誰が担当しているのか。
事務局	今年度は広告を手掛けている武蔵境にある事業者に委託した。新しい試みの、オンライン環境フェスタでは、撮影ボランティアを募集し、撮影の方法を教わるような講座も開催している。このPRプロジェクトの高校生・大学生もうまく指導してくれている。
副委員長	私自身もそういう事業、アートディレクターをやっていたので、無償でアドバイスできる。
事務局	ぜひ、お願いしたい。
事務局	資料6にあるキャラクター愛称の募集結果を「エコリス」と説明。
副委員長	キャラクターが、二次元のキャラクターでよいのか不思議。リスとエコの実をそれぞれ3Dモデルにして、動くことができるようなモデリングがあればよい。子どもが真似て書けるような単純な抽象化はされていないが、あまりリアルでもない。
委員長	あまりにストレートな結果になったという感想。子どもが多く、小学生が応募している。何か感想はあるか。
委員	小学校にもこの募集チラシがあったが、色が地味であまり目立たなかった。たくさんチラシが余っていて、目が引かないのかなと残念に思った。中学生の子どもがいるが「かわいい」と言っていた。「エコのリスだからエコリスだね」と応募した人たちと同じことを言っていた。親しみやすいのかなとは思う。
委員長	武蔵野市にはリスはいるのか。エゾリスしか見たことがない。
事務局	自然のリスはいないかもしれない。
委員	井の頭公園にリス専用のゲージ「リスの小径」がある。10何匹ぐらいいて、子どもには親しみがある。参考になると思う。
委員長	投票件数はエコリスが圧倒的に多い。これをそのまま市長に答申でよいか。
事務局	想定した以上に1位と2位の差が大差になった。この票の差をくつ

	がえすことは難しいかもしれない。
委員	エコリスが圧倒的に1位ということで、かわいらしい名前と思うが、個人的な感想としては、表記は全部カタカナよりもエコ re ゾートのリが「re」になっている方が、エコ re ゾートのシンボルになって、意味があると思う。エコ re ゾートの中にも「re」の概念があってコンセプトにもあるので。エコリスの響きはいいという前提で、名称の「エコリス」のりは「re」を残すのもよいように思う。
委員長	re ゾートの概念を考えるとそういう事かもしれない。表記も書かれているので、市長が選ぶと思う。
委員	商標調査はしているか。
事務局	「エコリス」に関してはしている。市が商標登録する方向。
委員長	先ほどの委員の発言はよいと思う。3Rという言葉があるが、結びつけて考えることもできる。最終的には、市長にお任せしたい。
委員	エコリスの名前については、市民の方からの公募で一番多かった名前を採用している。「re」は個人的にはよいと思うが、34票という票数の結果をくつがえして、「re」をつけるのはなかなか難しいと思う。
委員長	センスで考えると、エコリゾートの「re」をつけて「エコ re ス」もあると思う。最終的には市長に決めていただくことにしたい。「re ゾート」のイメージが、私たちがイメージするリゾート法とは違う意味があったと思うので、調べておくとよい。連携会議でも出たので、「re ゾート」の意味を考えてほしい。
事務局	昨年9月に実施した施設名称を考える連携会議では、「re ゾート」を「余暇を過ごす」という意味ではなく、「何回も訪れたい場所」、「最後の砦」という趣旨で発言があったと思う。
委員長	そうしたことも踏まえて、市長に提言していただきたい。
事務局	資料6を使ってサポーター制度について説明。
副委員長	どういう人にサポーターになってほしいというイメージがあると思う。環境省には「環境カウンセラー」という人材登録制度があり、国家資格ではないけれど。公益財団の「花みどり検定」や日本緑化センターの「自然再生士」などの資格がある。世の中には、こうした環境に関する人材育成のフィルターがあるので、こういうものを列挙して、資格を持っている人歓迎などとするやり方もあると思う。
事務局	そういう専門的な知識をもっている方たちにも働きかけができればよいと思う。

副委員長	<p>「インタープリター」という概念は、アメリカの自然公園で、「自然の声を人間の声に翻訳する人」というところから発生した。自然公園に対する知識などが必要。「インタープリター」は、最近注目され、流行っている言葉だが、きちんと意味をわかって、裏付けを理解して使わないといけない。</p>
委員長	<p>ヨセミテで案内されたことがあるが、しっかり訓練されていた。日本にも資格はピンからキリまであると思う。環境カウンセラー、特に市民カウンセラー専門の方は、企業で資格を取っている方もいるが、高齢化しているという印象がある。</p>
委員	<p>2点ある。一つはすでに専門的な知識を持たれていて、来館された方に説明できる方は必要だと思う。それに加えて、現時点ではそこまでの知識がなくても、サポーターに登録すると、自動的に研修等の学ぶ機会、インプットが与えられて、インタープリターまで専門的ではなくても、例えば子育て中の親であっても身につけることができる実践的な知識をエコreゾートで習得して、来館した同じ子育て世代の方に対して同じ立場から家庭でもできることを伝えられるとよい。ある程度グラデーションというか、専門的な方もいて良いし、逆に見習いというか、専門の方から環境に対する知識を学びながら、これまで環境に対する知識を持ったことのない人でも有効に展開していけるような存在がいるとよいと思う。</p> <p>施設運営の補助に応募される方たちに、こうした機会が提供されると思うが、裾野が広がっていくと、本当に市民参加というか、多くの市民に届くような形になると思った。</p> <p>もう一つは、前回活動例で分かれた資料をもらって、ものすごくイメージがつきやすくなった。質問だが、サポーターの有償・無償で話を戻した時に、このあたりの組み分けは、専門的なものだけは有償なのか、それともすべてが無償なのか。</p>
事務局	<p>一点目はそのとおりのと思う。専門的な方もいれば、サポーターになって、ここから興味を持ってもらえたらという思いがある。昨年環境の学校を実施しているが、5回の連続講座が終わった後に、事業を企画して、他の市民の皆さんに伝えたい思いをどう伝えるかということ話し合い、事業化している。みんなで学んで、考えて、実践していく講座としている。</p> <p>二点目の有償・無償については、基本的に、市民のみなさんの活躍の場と考えているので、この3つの区分に関しては無償で考えている。</p> <p>先ほど団体の活動に対し、5万5千円補助していることとお話した</p>

	<p>が、例えば、出前講座のプログラムをつくり、講師の派遣依頼があったら環境市民団体の専門的な資格を持った方をお願いするといったようなことができたらとよいと考えているが、そうしたケースはサポーター制度では考えていない。</p>
委員	<p>サポーターの資料の2、3段目が無償というのは難しいと感じたが、サポーターの概念だけではなく、エコreゾートの事業を将来的に委託事業とした際には、立ち上げから関わってきた方に対しては有償にできるとよいと思う。</p>
委員	<p>前回サポーターが、有償か無償かの議論の中で、受付などは使用団体に期待した方がよいという発言をした。エコreゾートに求められる運営方式を資料6の施設運営の補助も含めて考えると、共通の理念のもと、よりよい利用環境を希求する、市民がどのように利用できたらよりよいのかということを探求する、利用する方自身がそういうことを考える事が大事であり、持続できる運営方式が望ましい。それには、ここを利用する個人・団体同士が対話や交流する中で、創発を促し、エコreゾートの3つの柱のひとつである「地域力の向上」につながるような運営をすればと思う。そこで、「協同組合方式的な運営」ができないかと考えた。協同組合とは、出資金を自分たちで出し合い、組合員となって事業を利用し、組合員として運営にかかわっていくものだ。</p> <p>つまり利用者自らが、エコreゾートの運営に必要なものを用意して、それを利用する。団体の活動は相互に協力し合う。誰でも参加できるように開かれた運営方式にするといったことが考えられる。参考事例として、パークスロープ食品生協（アメリカ）、国立本店、Chika-baがあり、これらはそのような運営を行っている。こうした運営方法もあるので、エコreゾートに生かせないかと思う。今後、皆さんと意見交換しながら可能性を探っていきたい。</p>
委員長	<p>興味深い事例だが、公の施設でできるかどうか、じっくり考えなければいけないと思う。また、面白い事例があれば、提案していただき、みなさんに紹介できればよいと思う。</p>
事務局	<p>参考資料について説明。機能については、事業例を各機能に切り分けるのが難しく、主な機能に入れている。</p>
委員長	<p>「おばあちゃんの知恵袋」のように、世代を超えて教えてあげられることがあるのは大事だと思う。自分が中学生くらいの時は殺菌作用があるヨモギを作ったりしていたが、今の子どもたちには、そうした体験がなく、おじいちゃん・おばあちゃんの知恵を伝えて、「はぐくむ、育てる」「学び合う場」として發揮していけたらと思う。</p>

委員	<p>エコレポートの概念が記載された参考資料は、非常にわかりやすい。エコレポートは一般市民にまだまだ浸透してないと思うので、以前つくっていたニュースレターのようなものを発行してほしい。</p> <p>私は 16 コミセンの代表で、コミュニティ研究連絡会に出ているが、「環境啓発」という言葉の内容まではわかっていない人が多いと思う。内容を易しく解説するような事業を考えてもらえるとありがたい。</p>
事務局	<p>情報発信については、先ほどご説明した環境の学校の PR プロジェクトで若い世代の方たちが制作している。そのあたりについても連携しながら考えていきたいと思う。</p>
事務局	<p>次回日程は 10 月 13 日（火）午後 7 時からに決定。</p> <p>サポーター制度の具体的な進め方や自由来館者に向けた情報提供など、施設の利用について話し合いたい。</p>
委員長	<p>第 5 回運営会議を終了する。</p>

以上